

たぐし

TAKUSUI
No. 719

9

September 2016

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



小型底びき網漁船 (淡路市飯屋)

但馬地区 沖合底びき網漁業 解禁 JF兵庫漁連 のり養殖技術研修会 開催

《今月の海上安全標語》～ 相乗効果!? ～

安全確保のためにも是非実践してください! 作業効率上がるかも…

片付けよう! 毎日使う ^{ふね} 漁船だから では、今月も安全操業で!

ようこそ

「ずっと真っ直ぐに」

（ようこそとは航海用語で「宜しく候の意。主に船を直進させるとききの号令として使われる」）

リオから東京へ

兵庫県漁業協同組合連合会 常勤監事 **高瀬 博文**



近頃…8月のお盆近くになって、オリンピック・高校野球などスポーツの話題がテレビ、新聞を賑わせています。とりわけRio Olympicにおける、日本チームの躍進は目を見張るものがあり、柔道、体操、水泳、レスリング、卓球など、かつて日本のお家芸と言われたものが復活し、毎晩寝不足になるほどワクワクさせられます。

内村選手を筆頭に体操男子では、アクロバットを思わせる様なすばらしい技。柔道においては勝負にこだわり、相手をねじ伏せる力技、まさに柔道日本の復活。また、水泳の萩野選手（個人メドレー）においては、欧米の体力的に勝る輩にも劣らない、スピードある力強い泳ぎなど、本当に感動させてくれました。

特に今回は、次の東京大会を視野に入れた政府をあげての支援のせい、これまでの戦いとは違う『世界と渡り合える技術、体力の向上、勝負強さ』がひしひしと伝わって来て、『日本人も捨てたものじゃないなあ』お金をかけてやれば出来るんや』と自分なりに変な納得をしています。

『勝っても、負けても、一生懸命やった結果だから褒めてやらない』と言う意見もあります。やっぱり世紀の祭典に出る限りはメダルを、それも真ん中の一番高いところで、一番光っているものももらってほしいと思うのは私だけでしょうか。

スポーツは、する人も見る人も熱中させます。オリンピックほどでは到底ありませんでしたが、遙か40年前に私も卓球や、大学ではボートやスキーなど、打ち込んだ日々が懐かしく思えます。もう体力的に、追いついていくはずもなく、テレビ観戦をしながら、『頑張れ、もう一押し、気力で負けるな』と言って、応援するのが関の山ですが、これも力が入って（自分も競技している気持ちになって）結構楽しいものです。もうしばらく先の話になりますが、もし機会があれば、4年後、日本で開催される『東京大会』を、是非、生で観戦してみたいものです…。

CONTENTS

No.719 September, 2016

- 2 ようこそ
- 3 但馬地区 沖合底びき網漁業解禁
兵庫県水産技術センター見学会・研究発表会
- 4 JF仮屋青壮年部 水産教室
- 5 のり養殖技術研修会
- 6 兵庫県漁港漁場協会通常総会・漁港漁場大会
今年も開催 マリンスクール
- 7 JF但馬 5種類の魚醤開発
- 8 コープこうべ組合員親子が漁師体験
明石市漁業組合連合会の勉強会開催
- 9 大輪田塾OB会通常総会
のり養殖施設への進入事故発生状況
- 10 兵庫JCC通信
- 11 旬に想う
海難事故をなくそう
- 12 大輪田塾だより



表紙の言葉

「小型底びき網漁船」(淡路市仮屋)

今月の写真は、8月にJF仮屋青壮年部が地元小学生を対象に開催した「水産教室」での一枚です。

この日は天気にも恵まれ、沢山の魚を見ることが出来たほか、移動中の潮風やエンジン音、真っ直ぐに伸びる航跡など、漁船に乗ったからこそ出来た体験が、いっぱいあったと思います。

「地元の産業である漁業を、身近なものとして捉えてもらえたら」との想いで数年ぶりに行われた漁業見学は、きっと夏休みの素敵な思い出となったことでしょう。

但馬地区の沖合底びき網漁業・ベニズワイガニのカニカゴ漁が解禁 ～9月1日に一斉解禁～

9月1日(木)から但馬の主幹漁業である沖合底びき網漁業とベニズワイガニカゴ漁業が解禁となりました。

初セリは、9月2日(金)に但馬の各港(津居山・柴山・香住・浜坂・諸寄)で行われ、沖合底びき網で獲られたアカカレイ、ハタハタなどが次々に水揚げされるなか、浜は活気に包まれました。沖合底びき網漁では9月～10月はカレイ類・ハタハタ・ノドグロなどを中心に漁が行われ、11月6日(日)に解禁されるズワイガニ、3月～4月のホタルイカなど様々な魚種を対象に来年5月31日(水)まで漁が行われます。

また、9月5日(月)には



ベニズワイガニの初セリの様子



但馬の各浜は一層活気づきました

香住西港でベニズワイガニの初競りが行われました。台風の影響で例年より少ない水揚げの約17トンでしたが、近畿圏唯一の水揚げ港である香住漁港には早朝から多くの報道陣の姿が見られ、県ベニガニ協会 福本 好孝会長の挨拶に続いて、セリ担当職員の威勢の良い声のもと、ベニズワイガニが次々にセリ落とされていきました。今年から新たに冷水機を導入した漁船があるなど、刺し身などに使われる活ガニを提供し、魚価向上に繋がようと新たな取り組みも行われています。

いよいよ始まった今漁期の操業安全と豊漁を祈念いたします。

当所では、日頃調査研究している課題や、その成果を水産関係者にお知らせすると共に、広く県民の方々に水産業を身近に感じ理解を深めていただくことを目的に、毎年、この時期に同センター内で見学会と研究発表会を開催しています。見学会は興味深く、研究機関らしい内容を、また、研究発表はより分かりやすく、より多くの人に知ってもらえるように工夫を凝らして行っています。

午前中には、水産に興味を持ってもらうために、顕微鏡を使ったプランクトン観察、煮干しの解剖、魚拓の作成を体験できるコーナーや、画像や実物の魚等を見ながらの水産業の学習、さらには「ふれあいプール」で海の生き物に触れる体験など、小学校低学年から大人まで楽しんでいただきました。

また、午後の「平成28年度兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センター研究発表会」には、漁業者をはじめ、JF関係者、行政や研究機関関係者にも参加いただき、兵庫県における水産試験研究の最新の成果について報告をしました。(別表参照)

今後、発表がより分かりやすい内容で、多くの方に参加していただけるよう努めてまいりますので、来年も是非お越しください。

(文：県立水産技術センター)



見学会では様々な企画を行っております。是非、お越しください

発表内容	発表者
マダイの「活け」出荷の品質向上について	県立但馬水産技術センター 主任研究員 鈴木 雅己
計量魚群探知機を使ったホタルイカ漁場の探索	県立水産技術センター資源部 上席研究員 西川 哲也
ノリ養殖漁場への栄養塩類供給手法の検討と今後の課題	県立水産技術センター資源部 主席研究員 原田 和弘

(発表順：敬称略)

平成28年度 兵庫県水産技術センター見学会
研究発表会を開催

JF仮屋青壮年部が水産教室を開催 ～学習小学校5年生が小型底びき網漁業を見学～

8月10日(水)、JF仮屋青壮年部(倉本 哲也部長)は淡路市立学習小学校5年生(45名)を対象に、小型底びき網漁業の見学などを行う水産教室を開催しました。

今年の教室は、事前に子どもたち、青壮年部員、同JF女性部員らでEM団子を作り、また、淡路で獲れる魚について考えてくることから始まりました。当日朝、仮屋漁港内で数隻の漁船に分乗した子どもたちがEM団子を次々に投げ入れて出港しました。船で10分ほどの沖合で操業中の漁船では、タコやハモなどの旬の魚の他に、ホウボウやエソといった普段見ることが少ない魚が、船上に揚がった網に入っており、触ったり興味深そうに見入っていました。

帰港後は、漁協会議室にて、まず、県本農林水産振興事務所水産課 高倉 良太さんから、県内



元気にEM団子を投入

で漁獲される魚の種類や漁法について話があり、田村 一樹さんからは栽培漁業と養殖漁業の違いについて説明がありました。続いて、同青壮年部員 山口 公明さんは、子どもたちに出した「淡路で獲れる魚」の宿題の答え合せや、魚の流通、日本近海の海流などについてクイズ形式で話をされました。ここでは正解者にプレゼントが貰えることもあり、子どもたちは盛んに手を挙げて答えていました。

今回の教室について倉本部長は「近年は命の大切さについて学ぶ教室だったが、今年は魚や漁業について知ってもらいたいとの想いから漁業見学を行うことにした。実際に沖に出ることで、楽しんで学んでもらえれば」と話されました。操業の様子を見たり、魚を見る機会がほとんどない子どもたちには貴重な体験となったようです。



じゃんけん大会もありました



揚がってきたタコに驚いたようでした

ノリ養殖について様々な角度で研修 平成28年のり養殖技術研修会



9月1日(木) 明石市の兵庫県立水産技術総合センターで、JF兵庫漁連(田沼 政男会長)主催による「平成28年のり養殖技術研修会」が開催され、ノリ生産者・関係者ら約120名が参加しました。この研修会は、毎年この時期にノリ養殖の持続的発展のために

の日本食ブームの高まりから「世界の需要拡大につながっている」といった持論を展開され、「ノリ需要は高まりつつある、今の生産量を維持出来れば、今後に希望が持てるのではないかとまとめられました。会場では、熱心に聞き入る参加者の姿が見られました。

必要な知識技能を習得し、ノリ養殖業の経営安定に資することを目的に行われ、今年も課題について発表がありました(別表参照)。この日講演を行った県水大気課 正賀課長は、昨年、一部改正となった瀬戸内海環境保全特別措置法の内容に触れ、今後、同法に基づき県の計画を策定していくことや、国が行う第8次総量規制との関係などを詳しく話されました。また、松谷海苔(株) 松谷社長は昨年の流通動向について触れた後、コンビニエンスストアや海外でのノリ消費の動向について話されました。松谷社長は「需要の主力となったコンビニを意識したノリづくり」の提案や、海外で



漁期中の管理、品種、海上安全など様々な講演がありました



「先は明るいと思う」とされた松谷社長

題 目	講師・発表者
瀬戸内海環境保全特別措置法改正の概要と県の取組 (講演)	正賀 充(兵庫県農政環境部環境管理局水大気課 課長)
平成28年度漁期に向けて (研究発表)	小西 好(JF兵庫漁連 兵庫のり研究所 課長代理)
養殖ノリの高水温耐性株作出に向けた取り組み (講演)	二羽 恭介(兵庫県立水産技術センター 主席研究員)
海苔の消費流通動向及び近年の相場について (講演)	松谷 晃(松谷海苔株式会社 代表取締役社長)
のり養殖時の安全対策について (報告事項)	戸川 義徳(神戸海上保安部航行安全課 専門官)

(発表順 敬称略)

通常総会・漁港漁場大会を開催 ～県下各地から164名集結～

兵庫県漁港漁場協会（中田 勝久 会長・南あわじ市長）は、8月30日（火）、湯村温泉の「井づつや」において「第65回通常総会」並びに「第56回兵庫県漁港漁場大会」を開催しました。

通常総会では、中田会長の開会あいさつに続き、「水産業の振興に全力を傾注する」との兵庫県農政環境部 新岡 史郎部長の心強い来賓祝辞が述べられたあと議事に入り、新役員を選任するなど、予定された全ての議題が可決されました。

引き続き開催された兵庫県漁港漁場大会には、県下各地から漁業者等164名が参加して、「潤いと活力ある漁港・漁村・漁場づくりにまい進する」という力強い大会宣言のあと、①漁港漁場整備長期計画の推進と平成29年度予算の確保、②漁港海岸事業の促進と平成29年度予算の確保、③豊かな海の再生、④県の漁港漁場整備等に対する施策の強化について満場一致で大会決議がなされました。今後、これら決議の実現に向けて、（公社）全国漁港漁場協会や他府県の漁港漁場協会等と連携して、農林水産省等の関係機関、国会議員、県議会議員、県当局等に働きかけしていくこととなります。

その後開かれた情報交換会は、

副会長の浜上勇人香美町長の挨拶の後、新温泉町岡本英樹町長の乾杯で始まり、会場は各地域から参集した漁業者の楽しそうな歓声であふれていました。（文：兵庫県漁港漁場協会）
なお、兵庫県漁港漁場協会の新たな会長等は次の通りです。

会長：中田勝久（南あわじ市長）、
副会長：田沼政男（JF兵庫漁連 代表理事会長・新任）、副会長：
浜上勇人（香美町長、代表監事）、
川越一男（JF浜坂組合長）

（敬称略）



今年も開催！平成28年度 マリンスクール



セリ市見学



ヒラメ稚魚の放流（JF神戸市コース）

コープこうべ・JF神戸市・JF兵庫漁連による協同組合の連携活動として毎年実施しているマリンスクール（2コース）が今年も開催され、参加した親子連れ（約80人）は楽しく漁業や県内産水産物について学びました。

第33回となるJF神戸市コース（7月25～26日）では「せり市」を見学したり、「魚のつかみ取り」、「ヒラメ稚魚の放流」、「タコの塩もみ」などを体験したほか、兵庫の漁業と環境のつながりを学習しました。また、稚魚の放流では、神戸市立栽培漁業センターの協力で魚を増やすこ



干シタコづくり用のタコの掴みどり



魚のさばき方講習

との大切さを学びました。

一方、第6回目となるJF兵庫漁連SEAT-CLUBコース（8月1日・8月8日）では「干シタコ作り」や「アジの三枚おろし」、「チリメンモンスター探し」、「兵庫の漁業と環境の学習」に挑戦しました。みなさん、普段あまり魚にふれる機会がないのか、どの内容も親子で一緒に目を輝かせて取り組んでいました。

どちらのコースも、終了後のアンケートでは多くの方が来年も参加したいとのことと、とても楽しんでもらえたようです。JF兵庫漁連では、このマリンスクールを通して、漁業や水産物をより広く身近に感じてもらうよう、今後とも取り組んでいきたいと考えています。

（文：JF兵庫漁連）

JF但馬が5種類の魚醤を開発!

～カニ魚醤入りのソフトクリームも販売～



今回、話を伺ったのは同JF丸山和彦専任部長で、この魚醤については「もともと、カニで魚醤を作るところから始まった。開発当初、魚醤のように塩とカニだけでは発酵せず、試行錯誤のうち、醤油と同様に大豆・小麦を入れると発酵することが分かった。だから、これは魚醤と醤油を合わせた新しいタイプの調味料です」と話されました。また、「魚の風味が強くないよう、まろやかな仕上げを目指した。5種類はそれぞれ約10カ月程度の発酵期間を微妙に調整し、風味だけでなく色の違いも出すようにした」と説明されま

JF但馬(真野豊組合長)では、地元で水揚げされるアマエビ・ノドグロ・ドギ(ノロケング)、ハタハタ、香住ガニ(ベニズワイガニ)をそれぞれ原料にした「但馬魚醤」5品を開発し、9月17日から販売を始めます。

この魚醤は、足が取れ極端に価格が下がった香住ガニや、小さいドギやハタハタといった未利用魚をJFが買

原料については「魚だけでなく、このとり育む農法」による豊岡産大豆・小麦を使用しており、添加物をせず、天然酵母で発酵させている」とされ、最後に「料理に数滴使うだけで風味がぐっと増す。風味付け、隠し味として使って頂けたら」と話されました。

気になる魚醤の評価ですが、数人のプロの料理人に意見を伺ったところ「使ってみたい」と高い評価をもらい、8月24日(木)、25日(金)の2日間、同JF会議室で行われた、発酵王子こと伏木 暢頭さんによる魚醤を使った料理教室や、一般の方や関係団体、行政担当者ら参加者による試食会でも、両日訪れた合わせ



「是非、香住で味わってほしい」と話す鈴木さん

一方、魚醤販売に先立ち、8月から香住の同JF「遊魚館」では、香住ガニの魚醤入りソフトクリームを販売しています。カニを原料にした魚醤は全国でも珍しいのですが、これを練り込み、付いた名前が「カニ・しょゆと・クリーム」。魚醤のコクがアクセントとなつて、ほのかにカニの風味が感じられる塩キャラメルに似た味わいの逸品となっております。PRを担当する同JF職員 鈴木俊哉さんは「魚醤に使っ

て約200人からも大変好評を得たとのこと です。同JFでは9月17日(土)から、JFの通販サイトと、香住・柴山・津居山の直売店にて各100ml…1,800円(税別)で販売を開始します。生産量に限りがあるため、同JF以外では地元民宿・旅館を優先的に販売していくとしています。



魚醤を使った新たな取り組みに今後注目したいですね

ている「香住ガニ」と「香住」の地名と共に売り込めればと思つている。香住ならではの当地ソフトクリームを是非味わってほしい」と話されました。この商品は通年販売されており、「カニしょゆ」と「パニラ」、「ミックス」は好評発売中。今後はイベントなどでも販売していく予定です。

他にも、県内産の製法にこだわった高品質なノリに、カニやエビの魚醤を合わせた味付け海苔の商品化も進んでいます。口の中にパツと広がるカニやエビの風味を楽しめる味付け海苔は、来年1月頃の販売予定で、魚醤同様、JFでの販売や地元民宿等での活用を目指しています。丸山部長は「他にも魚醤を使った商品化を進めていきたい」と魚醤活用から拡がる新たな展開に期待を寄せています。

コープこうべ組合員親子が漁師体験 ～ひょうご地魚推進プロジェクトでの漁業体験～



船の操船体験



アナゴ籠の引き揚げ体験

どの回においても、引き揚げ体験時、初めての経験に参加者は、最初は恐る恐るロープや網を引き揚げていますが、徐々に慣れてくると魚が揚がるたびに歓声を上げて魚との触れ合いを楽しんでいます。また、先ほどまで生きていた魚が調理さ



タコの塩もみ魚の三枚おろし体験



獲れた魚で昼食

平成25年より始まった「ひょうご地魚推進プロジェクト(通称とれびち)」も今年で3年が経過しました。このプロジェクトでは、コープこうべ店舗での水産物販売と、その販売等にコープこうべ組合員がたずさわっていく運動が一体となった魚食普及活動を展開しており、その一環として、コープこうべ組合員の親子を対象に坂越漁港(JF赤穂市)において漁業体験を実施しています。

この体験は、参加親子が漁船に乗り込み、アナゴかご漁と定置網漁の引き揚げを体験し、昼食時には獲れたての魚を食べるとともに、兵庫の漁業と環境について学習するというプログラムです。今年8月から9月にかけて5回開催します。

SEAT CLUB(シートクラブ)は、今後もこのような体験漁業を通じて、消費者の皆さんに魚をもっと身近なものに感じてもらい、地魚の普及へと繋げたいと考えています。そこで、SEAT CLUBでは体験漁業を受け入れていただける漁業者の方を募集しています。ひょうごの魚のおいしさや伝え、兵庫の漁業のファンを増やすため、ぜひお力をお貸しください！

(文：JF兵庫漁連)

れていく時は、かわいそう、という声を上げる子供もいますが、命の大切さを学び、出来上がった料理は、おいしい、と声を上げて残さずに食べていきます。そして、魚が苦手という子供や保護者も、プログラムが終了するころには「これからは兵庫産の魚を食べたい」というように魚に対する見方が変わることも多いので、体験に勝るものはないと改めて感じています。また、体験教室自体は小規模で行っていますが、参加者から他の組合員へ、コープこうべの組合員同士の横のつながりを活用してもらい、兵庫の地魚の良さがさらに伝わっていくことに期待しています。

瀬戸内海環境保全特別措置法の改正について意見を交わす 明石市漁業組合連合会の勉強会開催



明石市漁業組合連合会(橋本幹也会長・JF江井ヶ島)は、明石市議会議員の先生方を交えた勉強会を毎年開催しており、様々な内容で活発な意見交換

が行われています。今年度は、昨年10月に法改正が実現した瀬戸内海環境保全特別措置法について学び、意見を交わそうと、8月1日(月)兵庫県水産会館で開催し、会場には、同市議会議員の先生方をはじめ同連合会の関係JF組合長や関係者をあわせ約50名が集まりました。

冒頭、橋本会長は「漁獲量は落ち込み、漁場環境の変化など問題が山積するなか、豊かな海を取り戻し、他業種との連携を図りながら明石の街を少しでも元気にするよう努めたい」と挨拶をされました。

続いて、「瀬戸内海環境保全特別措置法の改正」と題し、兵庫県農政環境部秋山和裕環境部長が講演をされました。秋山部長は、足掛け11年に及ぶ取り組みの成果として実現した今回の法改正の内容

で、また、昭和48年の臨時措置法制定の背景から今日に至るまでの経緯や、水質汚濁防止法の窒素・リン総量規制について分かりやすく説明されました。講演の最後には「改正法の宿題となった、栄養塩と漁獲」については、国だけでなく、兵庫県も研究を進め、国に新たな制度等を提案していく」と纏められました。

また、議員の先生方も現在の貧栄養を巡る諸問題について十分認識され、その後の意見交換では、下水処理場の栄養塩管理運転やため池のかいぼり等の重要性について多くの意見がよせられました。さらに、JF組合長からの「総量規制の範囲内で栄養塩管理運転を行う中、冬場に栄養塩濃度を上げて放流しても、夏場は下げないといけない現状をどう解決するのか」とした意見に対して、秋山部長は「環境基準を十分達成している瀬戸内海での今後の高度処理の是非や、本来の規制の目的について原点到返って考えることが必要である」と熱く意気込みを語られました。

豊かな海を目指す漁業関係者にとっても非常に心強く、有意義な勉強会となりました。



講演を行う秋山部長

大輪田塾OB会通常総会を開催 OB会としての更なる発展を誓う

昨年発足した大輪田塾OB会（我本裕明代表幹事…1期生 JF明石浦）は、8月6日（土）、明石市内のホテルにおいて第1回目となる同会の通常総会を開催し、山田隆義塾長、田和正孝運営委員（関西学院大学）を来賓に迎え、修了生・事務局併せて約20名が参加しました。

我本代表幹事は「開設当時は塾生を集めるにも苦労したとのことであったが、大輪田塾12期生を迎えようとしている今、希望者が増えてきていると聞いている。我々OBが今後活躍することによって、大輪田塾が続いていくことになれば嬉しいこと」と挨拶をされました。

また、来賓挨拶に立った山田塾長は「初代塾長丸一芳訓氏が、兵庫の水産業を担う人材育成を掲げて開設し、今日まで続けることが出来た。多くのOBを輩出するなか、この会をもっと生かして、将来の兵庫を担っていく組織になることを期待する」と話



恒例の近況報告では山田塾長にもお話をしました



橋本 昌和幹事（JF南淡組長：2期生）の乾杯の発声で交流会は幕を開けました

され、田和運営委員からは「当初から塾運営携わってきただが皆さんから教わることはか



り、領海・接続水域等について皆で意見を交わしました。この後、「大輪田塾OB会交流会」では、久しぶりに顔を合わせた仲間たちとの会話や、大輪田塾では恒例となった事務局も交えた近況報告もあり、大いに盛り上がったなか、前田勝彦幹事（1期生・JF神戸市）が「今後のOB会活動を積極的に展開していきたい」と挨拶し、会はお開きとなりました。

総会終了後には濱根 秀樹幹事（1期生・JF浜坂）から話題提供として、日本海における日韓漁業暫定水域の現状について話があり、



のり網注意

のり養殖施設への進入事故発生状況
(H 27. 9月1日～H 28. 5月31日)

神戸海上保安部航行安全課からのお知らせ

のり養殖施設
毎年9月～翌年5月の間、のり養殖施設設置

- 27年10月17日(土)15時50分頃
 - ・1人乗りクルーザーヨットが乗揚
 - ・野瀬ポートパーク→日生マリーナ
 - (原因:操船不適切) 区画64
- 27年10月1日(木)23時30分頃
 - ・3人乗りクルーザーヨットが乗揚
 - ・広島市→新西宮ヨットハーバー
 - (原因:水路調査不十分)
- 27年11月21日(土)18時頃
 - ・4人乗りクルーザーヨットが乗揚
 - ・的形→男鹿島→的形
 - (原因:) 区画52
- 27年9月27日(日)8時40分頃
 - ・7人乗りプレジャーボートが乗揚
 - ・神戸ハーバーマリーナ→須磨沖
 - (原因:水路調査不十分)
- 28年3月21日(月・休)08時30分頃
 - ・1人乗りモーターボートが乗揚
 - ・明石港→富島沖(※機関故障後、乗揚)
 - (原因:取扱不注意)
- 27年12月21日(月)6時20分頃
 - ・貨物船(199トン)の乗揚
 - ・高松→泉佐野
 - (原因:居眠り運転)
- 27年11月2日(月)3時30分頃
 - ・土砂運搬船(499トン)の乗揚
 - ・家島→尼崎
 - (原因:居眠り運転)
- 27年12月2日(水)22時40分頃
 - ・3人乗りモーターボートが乗揚
 - ・西予市→室津漁港→泉佐野港
 - (原因:)
- 27年10月3日(土)12時25分頃
 - ・2人乗りクルーザーヨットが乗揚
 - ・新西宮ヨットハーバー→慶野松原
 - (原因:見張り不十分)

安心して暮らせる社会づくり みんなの声かけ運動応援協定締結

県JA女性組織連絡会は7月19日(火)、みんなの声かけ運動応援協定を兵庫県と締結しました。

同運動は、ユニバーサル社会※づくりの一つとして、障害のある方、高齢者、妊婦、小さな子ども連れの方をはじめ、誰もが街中で困っているときに、みんなが声をかけて助け合おうという県民運動です。平成28年度3月末時点で、学校や企業を含む県内117団体、構成員数12万3,770人が応援協定を締結しており、このたび新たに29団体が同運動に加わりました。締結式は、「平成28年度ひょうごユニバーサル社会づくり推進大会」の中で行われ、締結団体の代表者が井戸敏三知事と協定書を取り交わしました。

同連絡会では、今後同運動の周知に努め、地域に暮らすJA女性会会員一人一人の意識を高めることで、誰もが安心して暮らせる豊かな地域社会づくりに貢献していきます。

※ ユニバーサル社会とは、年齢、性別、障害の有無、文化などの違いに関わりなく誰もが地域社会の一員として支え合う中で安心して暮らし、一人一人が持てる力を発揮して元気に活動できる社会



◀井戸知事と協定書を取り交わす吉岡代表世話人



28年度新たに応援協定を締結した団体代表者

「兵協連 医療生協部会 研修会」を開催

7月21日(木) 14時~17時、兵庫県農業共済会館において「医療生協部会 研修会」を開催。「支部活動、班活動における担い手・後継者づくり」をテーマとして8医療生協の役職員、組合員あわせて81人が参加しました

研修会では、医療生協さいたま 本部けんこう文化部 組合員サポート課 杉野亜希子氏を講師に「ニーズにあわせた医療福祉生協へ～組織改革と担い手づくり～」と題して、改革に至った背景や活動の見直しなど、地域包括ケア対応も含めた今後の課題について事例を挙げてお話いただきました。また、少人数グループに分かれて行われた意見交換では、医療生協さいたまの活動について具体的な運用方法などの質問が飛び交いました。

参加者からは「出来ないではなく、誰もが出来る活動でなければと仰られたこと、本当にその通りだと感じました。」「どの医療生協でも抱えている問題について、解決へのヒントを多くいただきました。」などの感想が寄せられ、有意義な研修会となりました。



旬に想う

写真と文
遊方子



外来植物のはなし

◆ 佐用の佐用都比売神社で、孫が稚児行列に出るといいう。助ましのためカメラを持って出掛けた。神社近くの知人宅へ駐車し神社まで歩いたが、孫は袴や薄い衣装を喜び、はしゃいでいた。キラキラの冠が落ちて着き悪く、何度も括り直した。その途中の道路脇で、見掛けぬ草が花をつけていて何枚か撮った。外来植物のようで、花は淡青色で可愛い感じだった。後日『帰化植物図鑑』で調べたら、オミナエシ科の「ノジシヤ」だと出ている。原産地が地中海で、欧州や豪州ではサラダ用に栽培し、明治初め日本にも導入されたが定着せずとあつた。◆ 今、日本の植物相は帰化植物を除いては語れない。帰化植物を含まない純日本的な植物を見るには、高山帯か湿原あるいは保全の行き届いた原生林を訪れるしかない。都会も田舎も生えている植物の殆んどが外来種で、実に多く混じった状態なのである。明治維新以降、海外との交易によって事物が流通し、それに伴って多くの帰化植物が同道して来た。戦後の経済成長期には、輸入家畜飼料に混じった雑草のタネがやつて来、牧場から逸出して日本全国へと拡散した。農産物市場の急速な自由化により、外来植物の侵入は数知れず増えたのである。日本の植物相を考える時は、帰化植物の現状を知ると同時に、その植物の由来を考えることが、とても重要な必須課題になっているように思うのである。

◆ 帰化植物の作物への影響は、生育を著しく阻害し収量が大きく減少する。イチビというアオイ科の一年草は、インド原産で熱帯から亜熱帯に広く帰化している。日本では一九九〇年頃に畑地で目立ち始め、九六年の調査で殆どの府県で発生ありと報告されたという。イチビのタネは地表10センチ位の所で発芽する性質を持ち、寿命は20年以上もある。耕耘を繰り返すことで、深みのタネが地表近くになって芽を出す。畑の強害雑草の一つで、絶やすには60℃の加熱で30時間必要と実験の結果が出ています。菜園のイチビは抜いても抜いても毎年顔を見ている。新天地に住み着いて「我が世は楽しいネ」と言っているようだ。

◆ 経済成長の著しかった時代。重機による大型な開発で、日本の山河が大きく削られ、造成地や高速道路の法面や裸地に、外国産の牧草が植え込まれた。此れらが野生化し日本の草になった。外来植物とは人為的に持ち込まれた物や飼料に混じって入り、牧場から拡がった草である。かつて貿易港湾で新植物が発見されたが、コンテナ輸送の普及・引き込み線の廃止、除草剤散布などで侵入経路が断たれ、今は余り見られないが無遠慮な緑の侵入者には警戒が必要である。

海難事故をなくそう!

ライフジャケットを着よう!

ライフジャケットを着用することで助かる可能性は飛躍的に向上します。



ライフジャケット (固型式)
モデル: JF兵庫信漁連営業部業務課 村田 延郎さん

自分自身のために、そして、家族のために是非、着用してください!

~安全をサポート~ 浮力合羽はお持ちですか?

浮力合羽はJF兵庫漁連が開発したもので、皆様の安全をサポートします。

浮力は充分にあり、動きやすいように工夫されています。

まだお持ちでない方は是非!

※国土交通省の型式承認試験基準に合格したものではありませんので、一人乗りの漁船の場合、ライフジャケットを着用してください。



モデル: JF兵庫漁連総務部 川崎 裕聡さん

ライフジャケット・浮力合羽の購入は
所属JFかJF兵庫漁連資材部 (078-942-9272) までお問い合わせください

現地研修を開催

和歌山県串本町で開催

今年度の現地研修は和歌山県の串本町で行い、和歌山県水産試験場と近畿大学水産研究所大島実験場の2か所を訪問しました。

8月23日(火)、この日参加した塾生ら12名は新大阪駅から特急に乗り、串本町へ向かいました。到着後、和歌山県水産試験場にて「和歌山県水産試験場の研究について」と題し



翌24日訪れた近畿大学水産研究所大島実験場では、澤田好史場長からクロマグロ養殖現場での説明と同研究所の歴史などの話がありました。同実験場は昭和45年に開設され、クロマグロの完全養殖の成功やクエの種苗生産の成功などの実績で知られています。今回はクロマグロを中心に施設全体の説明を受けることが出来ました。まず、施設から船で約10分のところに浮かぶクロマグロ養殖施設で説明を受けた後、給餌の実演があり、

て、小川満也副場長から、同県の水産業の現状や、黒潮の位置の観測、ヒジキの増殖、スマ(ヤイトカツオ)の完全養殖など、幅広い内容の話を聞きました。続く施設見学では、黒潮の潮流観測の画面を見ながら説明を受けたり、クエやシロギスの種苗生産や採卵の現場、スマの稚魚育成の状況も見ることが出来ました。塾生からは黒潮が沿岸に与える影響や、シロギスの採卵条件など次々と質問が出て、活発な意見交換がありました。



スマやクエなどの種苗生産現場を見ることが出来ました



黒潮の観測データの説明を受けました

塾生も挑戦することが出来ました。餌が海面に落ちるとすぐ、一斉に海面から水しぶきが上がり、中には飛び上がるマグロもいるなど、迫力ある光景に塾生らは驚き、盛んに写真に収めていました。また、説明の中で澤田場長は「エサとして大量の魚が必要。今後は、マグロをベジタリ

アンにする」として大豆などの配合飼料の研究を進める」と話され、クロマグロ養殖の抱える課題などについて詳しく話を聞くことが出来ました。ニュースなどで見聞きすることのあったクロマグロの養殖ですが、実際に現場を見て話を聞くことで、より一層理解が深まったようです。



マグロ養殖について知識を深めることが出来ました



給餌体験でその迫力に驚く11期生長澤さん